



私の  
**なんとか  
しなきゃ!**

Vol. 64

## PROFILE

1985年生まれ。幼い頃、外交官の父に帯同してイギリスやロシアに在住。帰国後も、外務省国際協力局で働く父の下で政府開発援助（ODA）に慣れ親しむ。大学卒業後の2008年、テレビ東京に入社。スポーツ番組のキャスターなどを経て、15年から「未来世紀ジパング」を担当している。

父が外交官だった私は、父の仕事でソビエト崩壊後のロシアに住むことになりました。当時、まだ幼かった自分と同じ年代の子どもが、道端で物乞いをしているのを見て、とてもショックだったんです。何より、そうした子どもたちの状況を世界の人々は知らないのではと感じたことが、「現場に足を運んで、自分の目で見たものを世界に伝える仕事に就きたい」と考えるきっかけになりました。

昨年、番組で東南アジアを取材しました。この地域に足を運んだのは、モスクワでの勤務が終わり、今度はジャカルタ駐在になった父を訪問した子どもの頃以来です。ベトナムやタイには発展のイメージ、カンボジアには紛争のイメージを持って現地へ足を踏み入れましたが、実際にはかつての日本のような、とてものどかな風景が広がっていました。やはり、現地に行って直接見なければ分からないものだな、と改めて感じました。

大きく発展したカンボジア。かつて、ポルポト政権下で人々が農村へと移住させられたプノンペンも、今は立派な大都市

## 現場でしか分からない真実を伝えたい

テレビ東京アナウンサー **秋元 玲奈**

AKIMOTO Rena



です。工科大学の学生たちは「将来は先生になりたい」とやる気に満ちています。かつての虐殺で、国や社会の指導者が足りないことを、若者たちも強く意識しているのです。若い世代の力を感じるとともに、こうした「人間のエネルギー」こそ、先進国が失い、途上国が持っているものではないかと感じました。これからの10年間、大きく成長していこうこの国に、これからも足を運び、見守っていきたいと思いました。

道路を高級車が行き交い、貧しさを感じさせないプノンペンの町並みに確かな成長を実感したのは事実なのですが、私が気になったのは、やはり田舎の人々の暮らしです。経済成長の中で、人々の生活に一体何が起きているのか。なかなか報道される機会がない、見えない部分のさまざまな現状を、しっかりとこの目で見て、伝えていきたいと考えています。

メディアに籍を置くことの一歩の強みは、普通なら知ることのできないさまざまな経験の機会が与えられていることです。情報を発信できる立場にあることを

自覚し、見たものを皆さんに伝えられる人間になるのが、今の目標です。

特に興味があるのは、人身取引や紛争、難民の問題です。女性として、同じ女性が商品同然に取引されていることに悲しみを禁じえません。そうした現場はもちろん、ニュースであまり注目されない国のこと、あるいは世界各地で増えている難民がなぜ故郷から逃れなければならないのかなど、この目で見て、伝えなくてはならないことはたくさんあります。

そのために、見逃してしまいそうなことに気付く感覚を磨くとともに、二度、三度と同じ場所に足を運び、現地の人と向き合うことはきっと重要です。これからも、自分にしか伝えられないものを世界に発信していきたいと思っています。

「なんとかしなきゃ!プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトやFacebookの専用ページを通じて、さまざまな国際協力の情報を発信していきます。

なんとかしなきゃ で 検索